

平成28年11月17日

浜田市議会議長 西田清久様

議員名 芦谷英夫 印



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

- 1、日時 平成28年11月8日(火) 13時～16時30分
- 2、研修内容 島根県精神保健福祉大会(講演ほか)
- 3、研修先 大田市(あすてらすホール)
- 4、調査経費 浜田駅⇒大田駅⇒浜田駅

JR利用 乗車券 1,940円

5、調査研究活動の概要

別紙報告書のとおり



島根県精神保健福祉大会（講演ほか）

平成28年11月17日

○日 時 平成28年11月8日（火）13時～16時30分

○場 所 大田市（あすてらすホール）

○内 容 島根県精神保健福祉大会

講演 演題「産業低迷・過疎高齢化の地域で精神保健医療福祉はどう
貢献していくか」NPO法人理事 御荘診療所長 長野 敏宏
体験・活動発表 4団体

○概 要

①講演で長野敏宏所長は、精神障害者の社会復帰施設を中心として、精神障害者地域へ参加、地域貢献をすることで、精神障害者入院ゼロを実現しています。精神障害者は、みかん農家の支援、廃棄物リサイクル活動、海の産廃カキ殻の循環型利活用、森林ボランティアで森林の再生などを進めている。

②また、温泉レストランの指定管理を受け、ふるさとおせち、産直バイキング、地元食文化で農家を守ることを行っています。さらに農業に着目し耕作放棄地から荒らす前に引き継ぐ、原木しいたけにより森林の再生などに次々と挑戦し、いまではアボカドの栽培に取り組んでいる。

③愛南町では「共に生きる」「共に働く」街づくりをめざし、精神障害者を支える活動からみんなと愛南町で生き抜くための実践へと進めている。『「情けは人のためならず」は、「地域貢献を続ける、することは、実は私たちにとって近道だった」。これまでの支える側と支えられる側という構図には限界があり、人が少なくなり人が大事になり、お互い様となる』と述べられた。

④体験・活動発表は、社会福祉法人亀の子、精神保健福祉ボランティアうさぎの会、サポートセンターおおち、などから行われその中で、高齢化、人口減、人手不足、地域の疲弊などマイナス面が強調されるが、それは高齢者、障がい者、社会的弱者、女性などの出番となり、市民総参加が求められて来る。当事者や家族会などが小さくまとまることなく、積極的に外へ打って出ること、身近なところから広げる、伝えていくことの重要性を強調された。

○所 見

①これまで支える側の福祉の課題は、福祉を担当する部署や団体だけで課題解決しなければいけないと考えがちであるが、むしろ地域づくりと連動して考えていくことも大事な要素であり、人と地域のつながりを中心に地域づくりを実践するなど、一層の福祉課題の社会化が必要である。

②精神保健の分野でも行政面の充実が必要であり、それを推進するため病院、社会福祉法人、施設、作業所などとの連携づくりを行い、相談、支援などの機関の充実とそれらを支えるボランティアの育成、地域全体の理解を深める市民への啓発活動が重要である。

③浜田市には浜田圏域の拠点的精神病院があり、障がい者の施設や作業所などを運営する大手社会福祉法人などがあり、これらと連携して障がい者が社会参加できる、地域で活躍できるまちづくりを進める必要がある。